

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	緑化啓発事業・一人一花運動事業・一人一花運動事業（消費）			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管課	住宅都市局一人一花推進課	根拠法令	都市緑地法及び福岡市緑地保全と緑化推進に関する条例		昭和48年「都市緑地保全法(現都市緑地法)」の制定を受け、同49年「福岡市緑地保全と緑化推進に関する条例」を制定、平成2年「第2次福岡市緑地保全・緑化推進基本計画」を平成11年2月に「福岡市緑の基本計画」を策定し、公共施設及び民有地の緑化等を推進している。			
開始年度	不明	行政計画	福岡市 新・緑の基本計画					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市民 ①緑化に関心のない人 ②緑化の必要性を理解している人 ③緑化を実践している人	実施内容(事業手段)	令和4年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ●一人一花運動として、既存の取り組みをリパッケージし、花や緑による共創のまちづくりを推進 ●各種緑化啓発イベントの実施(一人一花サミット、一人一花スプリングフェス) ●おもてなし花壇制度の拡充(R3:176口→R4:186口) ●ボランティア花壇の拡充(R3:293団体→R4:325団体) ●パートナー花壇の拡充(R3:498団体→R4:576団体) ●一人一花活動サポート企業数(R3:13社→R4:15社) ●一人一花メディアパートナー数(R3:14社→R4:17社) ●緑化推進に携わる市民の育成・支援(緑のコーディネーター事業(コーディネーター数 309人))	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 一人一花運動の輪を広げ、「花や緑による共創のまちづくり」が定着することを目指し、今後も事業を継続していく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 緑化意識を向上する ①～③のターゲット区分ごとに ①⇒緑化の必要性を理解してもらう ②⇒緑化の実践を促進してもらう ③⇒緑化活動を他者にも広げてもらう。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウト (どんな活動を行うのか)	②結果アウト (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウト (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウト (その結果、市としてどうなるのか)																																						
	・一人一花サミット、一人一花スプリングフェス等の緑化推進イベントを実施するとともに、広報活動、協賛募集活動を行う。 ・市民、企業等による花壇活動制度についての広報及び花壇活動支援を実施する。 ・緑のコーディネーター養成講座の開催(緑のまちづくり協会)・認定・活動支援を実施する。	・イベント参加者が増加する。 ・協賛企業等からの協力を得られる。 ・花壇活動への参加者が増加する。 ・コーディネーター養成講座に参加する。 ・コーディネーターがいろいろな場面で活動する。 ・コーディネーターを継続して活動する人が増える。	・緑化に対する意識が向上する。 ・花や緑を身近に感じるようになる。	・花や緑による共創のまちづくりが定着する。 ・市民の自主的な緑化活動による都市環境の改善が図られる。																																						
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)																																						
	活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>—</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td>100.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	目標	—	7	8	R6年度	実績	7	7	8	8	達成率	—	100.0%			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> <td>R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>30.8</td> <td>31.8</td> <td>50.0</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>61.6%</td> <td>63.6%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	目標	50.0	50.0	50.0	R2年度	実績	30.8	31.8	50.0	50.0	達成率	61.6%	63.6%	
年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																						
目標	—	7	8	R6年度																																						
実績	7	7	8	8																																						
達成率	—	100.0%																																								
年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																						
目標	50.0	50.0	50.0	R2年度																																						
実績	30.8	31.8	50.0	50.0																																						
達成率	61.6%	63.6%																																								

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	4-3-4	
	再	4-4-4	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	生物多様性の保全とみどりの創出		
事業群	みどりの創出		
行政運営プラン			
取組方針	2ぬくもり 多様なニーズに寄り添うサービスの提供		
推進項目	④市民や企業などとの共働・連携		

事業費(千円)			
令和4年度決算額(見込額)			
歳出合計		60,734	
歳入	特定財源	17,872	
	一般財源	42,862	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R3	R5
歳出合計		133,511	128,833
歳入	特定財源	18,836	23,536
	一般財源	114,675	105,297

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	青果市場・箕子小学校跡地活用の推進、冷泉小学校・こども病院跡地活用の検討			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	住宅都市局跡地計画課	根拠法令	なし		敷地規模や立地環境など都市計画的な観点から、総合的な検討が必要となる跡地について、早期跡地活用に向けた検討を推進する必要があるため
開始年度	—	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 青果市場跡地、箕子小学校跡地、冷泉小学校跡地、こども病院跡地
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 土地を所管する部局と連携し、敷地規模や立地環境を踏まえ、地域や福岡市の魅力向上に資する跡地活用の早期実現を図る

実施内容(事業手段)	令和4年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○青果市場跡地 「まちづくり構想」策定(H29.9)済、事業者選定(H30.7)・売買契約(H30.12)済。 令和4年度は、事業者公募で提案された大規模複合施設が供用開始(R4.4)したため、土地を所管する農林水産局へ事業の引継ぎを行い、住宅都市局で担う業務が終了した。 ○箕子小学校跡地 「跡地活用方針」策定(H30.11)済、事業者選定(R1.9)・事業契約(R2.3)・工事着手(R.3.11)済。 令和4年度は、提案内容を踏まえた事業者や地域との協議・調整を実施している。 ○冷泉小学校跡地 令和4年度は、跡地周辺の建築物の規模や土地利用の状況、交通量の調査を行うとともに、石積み遺構の埋戻し保存による跡地活用への影響を想定し、跡地活用における諸条件の整理や課題の検討を行っている。 ○こども病院跡地 「跡地活用方針」策定(R4.3)済。 令和4年度は、7月から事業者公募を実施し、令和5年1月に優先交渉権者を決定した。事業者とは提案内容を踏まえた協議・調整を実施している。
------------	--

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 跡地活用の方向性でとりまとめた機能が導入された施設(事業者公募で提案された施設)が供用開始した後、土地を所管する部局に事業を引き継ぐ
-------------	--

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)								
	土地を所管する部局と連携し、敷地規模や立地環境を踏まえ、地域や福岡市の魅力向上に資する跡地活用方針を策定する。事業者決定後は、提案を踏まえ事業者及び地域や関係機関等との調整を行う。	跡地活用の方向性(跡地活用方針など)をとりまとめ、跡地活用に向けた取り組み(事業者公募など)が定まる。選定された事業者の提案が実現されるよう、事業者及び地域や関係機関等との調整を行った結果が設計・運用等に反映される。	事業主体により、敷地規模や立地環境を生かし地域の活性化に資する機能の導入や、魅力ある都市空間の創出が図られている。	・地域の課題を踏まえた跡地活用による地域の活性化や福岡市の魅力向上 ・新たな機能導入による雇用の場の創出や税収増 ・公有地の運用(売却・賃貸等)による財源の確保								
	指標の内容	実績	指標の内容	実績								
	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度							
活動の指標	跡地活用の方向性(跡地活用方針など)のとりまとめ	目標	策定(こども病院跡地)	検討(冷泉小跡地)	未定	契約(売却・賃貸等)した跡地の面積(ha)	目標	9.7(青果市場跡地・箕子小跡地)	9.7(青果市場跡地・箕子小跡地)	11.3(青果市場跡地・箕子小跡地・こども病院跡地)	未定	
		実績	策定(こども病院跡地)	検討(冷泉小跡地)	策定		実績	9.7(青果市場跡地・箕子小跡地)	9.7(青果市場跡地・箕子小跡地)	12.1		
		達成率	100.0%	100.0%	—		達成率	100.0%	100.0%	—		
	公募による事業者選定、提案を踏まえ事業者及び地域・関係機関等との調整	目標	実施(青果市場跡地、箕子小跡地)	実施(青果市場跡地、箕子小跡地、こども病院跡地)	実施(箕子小跡地、こども病院跡地)	未定	供用開始した跡地の面積(ha)	目標	0.0	8.8(青果市場跡地)	9.7(青果市場跡地・箕子小跡地)	未定
		実績	実施(青果市場跡地、箕子小跡地)	実施(青果市場跡地、箕子小跡地、こども病院跡地)	実施	実績		0.0	8.8(青果市場跡地)	12.1		
		達成率	—	—	—	達成率		—	100.0%	—		

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 4-4-1 再 —	施策成果指標 なし
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり	
事業群	計画的な市街地整備の推進	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)		
令和4年度決算額(見込額)		
歳出合計	11,097	
歳入	特定財源	5,923
	一般財源	5,174
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R3	R5
歳出合計	7,650	8,028
歳入	特定財源	607
	一般財源	7,421

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管課	住宅都市局計画調整課	根拠法令	なし		九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス跡地等について、計画的かつ速やかな土地利用転換を図り、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入を推進するため。	
開始年度	平成3年	行政計画	地域拠点、機能を充実・転換する地域(第9次福岡市基本計画)			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 九州大学箱崎キャンパス跡地等	実施内容(事業手段)	令和4年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○公募内容について九州大学・URと協議・調整 ○議会への検討状況の報告 ○都市基盤の整備(都市計画道路等)	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 九州大学箱崎キャンパス跡地等のまちづくりの完了(まちの概成)まで事業を継続
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 周辺地域と調和・連携した、良好な市街地の形成および新たな都市機能の導入を図る。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)				③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)				④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
	・グランドデザインの実現に向け、土地所有者である九州大学などと連携し、周辺地域との調和・連携・交流に配慮した多様な機能の誘導や一体的なまちづくりなどに取り組む。		・土地所有者である九州大学等が行う、土地利用事業者公募において、良好な提案がなされる。 ・良好なまちづくりの実現に向けた、土地利用の具体化が図られる。				・グランドデザインに基づき、段階的な土地利用の転換、都市基盤の整備が行われ、周辺地域と調和・連携した、良好な市街地が形成されるとともに、新たな都市機能が導入される。				・多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感が創出されている。 ・周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展している。 ・持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちがつけられている。			
	指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	年度	実績		目標		
活動の指標	グランドデザインの実現に向けたまちづくり	目標	-	-	R 年度	実施	土地利用事業者公募の範囲内、土地利用の転換が図られた面積(ha)	目標	0.0	0.0	0.0	R 年度		
		実績	実施	実施	完了			実績	0.0	0.0		28.5		
		達成率	-	-				達成率	-	-				
	目標			R 年度	目標				R 年度					
	実績				実績									
	達成率				達成率									

基本事項

			事業区分	重点
基本計画				
施策コード	主	4-4-1		施策成果指標 なし
	再	7-4-1		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり			
事業群	計画的な市街地整備の推進			
行政運営プラン				
取組方針	なし			
推進項目				

事業費(千円)				
令和4年度決算額(見込額)				
		歳出合計	655,112	
歳入	特定財源		471,504	
	一般財源		183,608	
前年度決算額・翌年度予算額				
		年度	R3	R5
		歳出合計	746,660	824,441
歳入	特定財源		619,774	519,900
	一般財源		126,886	304,541

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	交通マネジメントの推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	住宅都市局交通計画課	根拠法令	なし		本格的な高齢社会の到来や環境問題の深刻化、不採算バス路線の廃止などの課題に対応するため、交通体系の主軸である公共交通ネットワークを強化し、マイカーに過度に頼らない社会を実現する必要がある。
開始年度	平成24年度	行政計画	福岡市都市交通基本計画		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 公共交通機関(鉄道・バス)および市民、来訪者。	実施内容(事業手段)	令和4年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 「福岡市交通基本計画」で掲げた基本的な方針のうち、「公共交通を主軸とした総合交通体系づくりの推進(方針1)」を踏まえ、その実施計画である「福岡市総合交通戦略」に位置付けた各種施策を実施した。 ・商業施設等と連携したパークアンドライド ・転入者に対するモビリティマネジメント(公共交通情報提供) など	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 公共交通の利便性確保や利用促進を図るため、継続して本事業を進めていく。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 異なる公共交通機関(地下鉄・西鉄電車・西鉄バス・JR等)が相互に連携し、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークとなり、多くの市民・来訪者に利用されている状態。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	利用者にとって使いやすい公共交通が主軸となった総合交通体系の構築に向けたロードマップを、交通事業者や道路管理者等の関係者との共働により策定する。	①のロードマップに基づいて、関係者(交通事業者、市、道路管理者等)の連携により、PDCAサイクルで取り組みが進められる。	②のプランを実行し、色々な公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携した、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークが形成される。	マイカーに過度に依存しなくてもよい、公共交通を中心とした交通体系が構築された社会となる。	
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	
	活動の指標	年度	R3年度	R4年度	R5年度
「福岡市総合交通戦略」に位置付けている施策の実施数	目標	26	26	26	R 年度
	実績	20	20		—
	達成率	76.9%	76.9%		—
公共交通が便利と感じる市民の割合	目標	—	—	—	R 年度
	実績	—	—	—	
	達成率	—	—	—	—

			事業区分	重点
基本計画				
施策コード	主	再	4-5-1	施策成果指標 ○1日あたりの鉄道・バス利用人員(H22:108万4千人 → R4:120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合(H24:77.4% → R4:現状維持)
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築			
事業群	公共交通ネットワークの充実			
行政運営プラン				
取組方針	なし			
推進項目				

事業費(千円)			
令和4年度決算額(見込額)			
歳出合計		144	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	144	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R3	R5
歳出合計		344	2,280
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	344	2,280

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	都心拠点間の交通ネットワーク強化の検討			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	住宅都市局都心交通課	根拠法令	なし		市が主要事業の一つとしてMICE誘致の推進に取り組む中で、新たな展示場の検討が行われるなどウォーターフロントエリアの重要性が高まっており、都心部(天神・渡辺通、博多駅、ウォーターフロント)の拠点間の回遊性を高め、来訪者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化に取り組む必要があった。
開始年度	平成23年度	行政計画	福岡市都市交通基本計画、福岡市総合交通戦略		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(事業手段)	成果(見直し判断基準)
	都心3拠点(天神・博多駅・ウォーターフロント地区)を回遊する市民や来街者		
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか	令和4年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○都心循環BRTの利用促進に向け、WF地区において利用状況の実態調査に加え、市民利用意向を把握するためのWebアンケート調査を実施 ○また、バスの定時性・速達性向上に向け、平成30年度に実施した「交通規制の変更やバス走行空間の明示化」について一般ドライバーの認知度が更に向上するよう、交通管理者などと連携して啓発チラシを作成し、交通管理者による企業向けの安全講習会や自動車学校で配布。	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか ・現在の利用状況を踏まえ、当面は現在の15分間隔運行を続けながら、引き続き、西鉄と連携しながら利用促進に取り組む。
	国際競争力を備えた九州・アジアをつなぐ交流拠点として、本市の成長を牽引する天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区、アジアとの玄関口であるウォーターフロント地区間の回遊性を高め、市民や来街者にも分かりやすい公共交通によるアクセス強化を図るもの。		

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)		③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																															
		○交通アクセス強化における段階的な整備スケジュール(プロセス)の確定 ○関係者と協議・調整 ○適宜情報発信(市民などへのわかりやすい情報提供)	○交通アクセス強化の段階的なプロセスが示され ○本事業の目的、プロセスを理解し、合意形成が図られている。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来訪者にとってわかりやすく利用しやすいものとなる。 ○都心部の案内誘導が充実し、市民や来訪者にとってわかりやすいものとなる。 ○本事業の目的、プロセスを市民が理解している。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来街者に定着する。 ○都心部の回遊性が向上する。 ○都心部における公共交通の利用者が増え、自動車利用者が減ることにより、「道路交通混雑の緩和」や「都心拠点間の交通ネットワークの強化」が図られる。																																																																																	
	※社会情勢や都心部における交通状況等を踏まえ、都心循環BRTを含む、バスの定時性・速達性向上や利用促進に向けた様々な施策に総合的に取り組むことで目標達成するものであることから、個別の指標を設定していない。																																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">活動の指標</td> <td>目標</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果の指標(KPI)</td> <td>目標</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	活動の指標	目標	—	—	—	R 年度	実績	—	—	—	—	達成率	—	—	—	—	成果の指標(KPI)	目標	—	—	—	R 年度	実績	—	—	—	—	達成率	—	—	—	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">公共交通が便利と感じる市民の割合</td> <td>目標</td> <td>現状維持(80%程度)</td> <td>現状維持(80%程度)</td> <td>現状維持(80%程度)</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>80.5%</td> <td>83.7%</td> <td>—</td> <td>現状維持(80%程度)</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果の指標(KPI)</td> <td>目標</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	公共交通が便利と感じる市民の割合	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	R6年度	実績	80.5%	83.7%	—	現状維持(80%程度)	達成率	100.0%	100.0%	—	—	成果の指標(KPI)	目標	—	—	—	R 年度	実績	—	—	—	—	達成率	—	—	—	—
指標の内容	年度			実績		目標																																																																																
		R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																																																																	
活動の指標	目標	—	—	—	R 年度																																																																																	
	実績	—	—	—	—																																																																																	
	達成率	—	—	—	—																																																																																	
成果の指標(KPI)	目標	—	—	—	R 年度																																																																																	
	実績	—	—	—	—																																																																																	
	達成率	—	—	—	—																																																																																	
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																		
		R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																																																																	
公共交通が便利と感じる市民の割合	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	R6年度																																																																																	
	実績	80.5%	83.7%	—	現状維持(80%程度)																																																																																	
	達成率	100.0%	100.0%	—	—																																																																																	
成果の指標(KPI)	目標	—	—	—	R 年度																																																																																	
	実績	—	—	—	—																																																																																	
	達成率	—	—	—	—																																																																																	

基本計画				事業区分	重点
施策コード	主	4-5-1		施策成果指標	施策4-5成果指標 ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員 現状値(2010年)108万4千人 目標値(2024年)120万人 ・公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合) 現状値(2012年)77.4% 目標値(2024年)現状維持(80%程度を維持)
	再	5-4-1	8-1-2		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている				
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築				
事業群	公共交通ネットワークの充実				
行政運営プラン					
取組方針	なし				
推進項目					

事業費(千円)		
令和4年度決算額(見込額)		
歳出合計		1,638
歳入	特定財源	0
	一般財源	1,638
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R3	R5
歳出合計	328	1,862
歳入	特定財源	0
	一般財源	328

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	都心部における交通マネジメント施策の推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 都心部、特に天神地区の交通混雑悪化を契機として、交通需要の調整や交通容量の回復を図るため、「福岡市交通マネジメント施策推進協議会」において打ち出された交通施策の方向性に基づき、交通マネジメント施策を展開する必要があった。また、都心部における交通混雑対策として「幹線道路・南北方向道路ネットワークの強化」を長期施策として掲げている。
所管課	住宅都市局都心交通課	根拠法令	なし		
開始年度	平成14年	行政計画	福岡市都市交通基本計画、福岡市総合交通戦略、福岡市道路整備アクションプラン		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都市機能の集積や自動車交通の集中により交通混雑が慢性化している福岡都心部
	対象をどのような状態にしたいのか 都心部における交通混雑の緩和や交通結節機能の強化を図り、円滑な都市活動を支える快適な交通環境を創造するもの。

実施内容(事業手段)	令和4年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○フリンジパーキングの実施 ○天神西エリアにて対象駐車場の追加(アキラパーキング) ○フリンジパーキング利用者の評価やニーズ・認知度を把握するためのアンケート調査を実施 ○博多駅地区において、フリンジパーキングの潜在需要を確認するために社会実験を実施 ○都心部の交通混雑緩和に向け、車線構成等についての基礎的な検討を実施 ○天神地区の交通課題解決に向け、天神交通戦略に基づくWeLove天神協議会(WLT)との共働による短中期施策の検討
------------	---

成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか ・自動車流入抑制のため、サービス拡充、利用促進にエリアマネジメント団体と連携しながら継続して取り組む ・都心部の交通混雑緩和に向け、引き続き検討を行う
-------------	--

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)		③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
		○公共交通利用啓発活動の実施 ○フリンジパーキングの確保に向けた検討 ○交通結節機能の強化 ○都心部の交通混雑緩和に向けた検討	○これまでの移手段からの変容が生じる(市民の公共交通利用が増加する、市民が自動車を賢く利用するようになる) ○フリンジパーキングが確保される ○交通結節点において快適な空間が創出される ○都心部の交通混雑緩和に向けた施策が立案、実施される	○公共交通分担率が上がる ○自動車分担率が下がる ○都心部中心部への自動車流入が抑制される ○交通結節点における乗継抵抗が低減される ○交通混雑が緩和される	○都心部の交通環境が快適となる(交通混雑緩和、交通円滑化、交通結節機能強化) ○都心部が、人を中心として安全・快適に歩ける交通体系となる					
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	実績	目標				
活動の指標	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度
※社会情勢や都心部における交通状況等を踏まえ、様々な交通対策に総合的に取り組むことで目標達成するものであることから、個別の指標を設定していない。	目標	—	—	—	R 年度	1日あたりの鉄道・バス利用人員	119万人	120万人	120万人	R6年度
	実績	—	—	—	—	実績	94.4万人	集計中	120万人	120万人
	達成率	—	—	—	—	達成率	79.3%	—	—	—
	目標				R 年度	公共交通が便利と感じる市民の割合	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	R6年度
	実績					実績	80.5%	83.7%	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)
	達成率					達成率	100.0%	100.0%		現状維持(80%程度)

事業区分				重点
基本計画				
施策コード	主	4-5-2		施策成果指標 ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員 現状値(2010年)108万4千人 目標値(2024年)120万人 ・公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合) 現状値(2012年)77.4% 目標値(2024年)現状維持(80%程度を維持)
	再	8-1-2	4-5-3	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築			
事業群	幹線道路ネットワークの形成			
行政運営プラン				
取組方針	なし			
推進項目				

事業費(千円)			
令和4年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	7,345	
	特定財源	0	
	一般財源	7,345	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R3	R5
	歳出合計	4,612	6,500
	特定財源	0	0
	一般財源	4,612	6,500

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	生活交通支援			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管課	住宅都市局交通計画課	根拠法令	公共交通空白地等及び移動制約者に係る生活交通の確保に関する条例		平成14年度の道路運送法の改正に伴い、バス路線の廃止が許可制から事前届出制となったことから、市内を運行する路線バスにおいても、不採算路線の休廃止の届け出がなされ、公共交通が空白地となる地域において、生活交通(代替交通)の確保が必要となるため、財政負担による支援を行うもの。			
開始年度	平成18年度	行政計画	福岡市都市交通基本計画					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 公共交通空白地及び公共交通不便地等の居住者	実施内容 (事業手段)	令和4年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○休廃止対策: 路線バスの休廃止に伴い、公共交通空白地となる地域において、代替交通の運行経費に補助を実施【5路線: 今宿姪浜線、板屋脇山線、志賀島島内線、脇山支線、金武橋本線】 ○不便地対策: 公共交通が不便な地域等において、地域主体の取組みに対する検討経費や交通事業者が実施する試行運行の経費に補助を行うものであるが、関係者と協議中。 ○生活交通確保支援: 上記対策の対象外地域において、生活交通確保に向けた地域主体の取組みに対して、地域と交通事業者間の調整などの活動支援を実施 ○オンデマンド交通社会実験: 持続可能な生活交通確保に向けた取組みの一つとして、地域や交通事業者と共働し、オンデマンド交通を活用して運行内容の工夫等を行う社会実験を実施【3地区: ①東区R4.11月～、②南区R5.1月～、③中央・城南区R5.6月～予定】	成果 (見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 必要最低限の生活交通を確保するため、生活交通条例に基づく、休廃止対策などに継続して取り組む必要がある。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 生活交通は、通勤、通学、通院、買い物その他の日常生活に欠かすことのできない、市民の諸活動の基盤であり、その移動手段について、必要最低限の生活交通の確保を行う。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																																
	○公共交通空白地となる地域における代替交通の確保・支援 ○地域主体による生活交通確保の取り組みに対する支援	○休廃止対策路線の維持 ○地域の実情に応じた生活交通の確保	○必要最低限の生活交通が確保されている。	○地域の実情に応じた生活交通が確保され、公共交通が便利と感じる市民の割合が維持される。																																																																																
	指標の内容	実績	目標	実績	目標																																																																															
活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>180.0%</td> <td>200.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	目標	5	5		R 年度	実績	9	10	5	—	達成率	180.0%	200.0%			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>50.0%</td> <td>50.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	目標	2	2		R 年度	実績	1	1	2	—	達成率	50.0%	50.0%			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>151</td> <td>155</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>148</td> <td>154</td> <td>160</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>98.0%</td> <td>99.4%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	目標	151	155		R 年度	実績	148	154	160	—	達成率	98.0%	99.4%			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>4</td> <td>4</td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>75.0%</td> <td>75.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	目標	4	4		R 年度	実績	3	3	4	—	達成率	75.0%	75.0%		
年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																																																																
目標	5	5		R 年度																																																																																
実績	9	10	5	—																																																																																
達成率	180.0%	200.0%																																																																																		
年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																																																																
目標	2	2		R 年度																																																																																
実績	1	1	2	—																																																																																
達成率	50.0%	50.0%																																																																																		
年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																																																																
目標	151	155		R 年度																																																																																
実績	148	154	160	—																																																																																
達成率	98.0%	99.4%																																																																																		
年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																																																																
目標	4	4		R 年度																																																																																
実績	3	3	4	—																																																																																
達成率	75.0%	75.0%																																																																																		

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	4-5-4	施策成果指標 ○1日あたりの鉄道・バス利用人員(H22: 108万4千人 → H34: 120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合(H24: 77.4% → H34: 現状維持)
	再	—	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	生活交通の確保		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和4年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	68,690	
	特定財源	9,797	
	一般財源	58,893	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R3	R5
	歳出合計	63,179	126,113
	特定財源	6,042	13,949
	一般財源	57,137	112,164

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	みどり活用推進事業			背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か これからの公園や街路樹などの整備・管理運営については、限られた財源の中で、社会状況の変化や市民の多様なニーズに的確に対応する必要がある。そこで、これまでの「創る・守る」視点だけでなく、「活かす・育てる」という新たな観点を加え、公園や街路樹等を「資産」と捉え、その価値を向上させ、それらの「資産」を経営していく必要があるため。
所管課	活用課, Park-PFI推進課	根拠法令	なし	
開始年度	平成25年度	行政計画	福岡市 新・緑の基本計画	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか みどり資産(公園や街路樹等)	実施内容(事業手段) 令和4年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①市民との共働:コミュニティパーク事業の推進 ②収支の改善:公園駐車場の有料化 駐車場の有料化の目的(不適正利用の排除, 公平性)に照らし、周辺環境や駐車場の実態、費用対効果などを踏まえ、適宜検討を行った。 ③資産の有効活用:官民連携事業 令和4年3月に公園条例を改正し、公募設置管理制度(P-PFI制度)の運用に必要な事項を規定した。 令和4年5月~7月にP-PFI制度活用における民間サウンディング市場調査を行い、10月~11月には市民アンケート調査を実施し令和5年3月に3公園を対象に公募を開始した。	成果(見直し判断基準) どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 「市民との共働」、「収支の改善」、「資産の有効活用」の3つの視点が効果的・効率的に実施できるよう、様々な活用方法等を検討(継続)していく
	事業目的 対象をどのような状態にしたいのか みどり経営基本方針の理念に則り、「市民との共働」、「収支の改善」、「資産の有効活用」の3つの視点が効果的・効率的に実施されている状態。		

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ・みどり経営基本方針を基に市民との共働や収支の改善、資産の有効活用を進め、みどり資産の価値の向上を図る。当面、下記の事業を進める。 ・市民との共働:コミュニティパーク事業の推進 ・収支の改善:駐車場の有料化、使用料や占用料の見直し、街路樹再整備方針の策定 ・資産の有効活用:公園利活用の推進、官民連携事業(PPP)の推進、公募設置管理制度(P-PFI)の活用検討	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ・みどりの維持管理へ市民参加が促進される ・公園ににぎわいが生まれる ・管理コストが削減される ・資産有効活用による歳入増又は歳出減 ・公園の魅力や価値向上 ・公園利用者の利便性向上	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) みどり資産の価値が高まる。 ①:地域住民の生活に根ざした身近な公園→地域自ら活かし育て、憩いやコミュニティ活動、健康づくり、学びの場となっている ②:広域から多くの利用者が集う公園→質の高いサービスとともに活かされ、都市の賑わいや活力の創出につながっている ③:都市の骨格と個性ある都市景観を形成する緑→まちを彩り、風格ある街並みを形成する緑として育て、愛されている ④:地域住民に親しまれる身近な森の緑→地域の貴重な緑として自ら守り育て、共存し、愛されている	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) みどりの資産価値が向上し、「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創出																																																																																																								
	活動の指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> <th rowspan="2">成果の指標(KPI)</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">コミュニティパーク事業 実施公園数</td> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td rowspan="3">現状以上</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>7.0</td> <td>7.0</td> <td rowspan="2">なし</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">駐車場有料化実施公園数(箇所)</td> <td>目標</td> <td>13.0</td> <td>13.0</td> <td rowspan="3">-</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>13.0</td> <td>13.0</td> <td rowspan="2">なし</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">民間活力導入事例数(箇所)</td> <td>目標</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td rowspan="3">-</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4.0</td> <td>4.0</td> <td rowspan="2">なし</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	コミュニティパーク事業 実施公園数	目標	-	-	現状以上	R 年度	実績	7.0	7.0	なし	R 年度	達成率	-	-	駐車場有料化実施公園数(箇所)	目標	13.0	13.0	-	R 年度	実績	13.0	13.0	なし	R 年度	達成率	100.0%	100.0%	民間活力導入事例数(箇所)	目標	4.0	4.0	-	R 年度	実績	4.0	4.0	なし	R 年度	達成率	100.0%	100.0%	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> <th rowspan="2">成果の指標(KPI)</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】</td> <td>目標</td> <td>52.5</td> <td>55.0</td> <td rowspan="3">55.0</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>30.8</td> <td>31.8</td> <td rowspan="2">なし</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>58.7%</td> <td>57.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地域活動への参加率</td> <td>目標</td> <td>68.0</td> <td>68.0</td> <td rowspan="3">70.0</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>43.3</td> <td>45.0</td> <td rowspan="2">なし</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>63.7%</td> <td>66.2%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3"></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">なし</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】	目標	52.5	55.0	55.0	R 年度	実績	30.8	31.8	なし	R 年度	達成率	58.7%	57.8%	地域活動への参加率	目標	68.0	68.0	70.0	R6年度	実績	43.3	45.0	なし	R6年度	達成率	63.7%	66.2%		目標				R 年度	実績			なし	R 年度	達成率	
指標の内容	実績			目標		成果の指標(KPI)																																																																																																						
	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度																																																																																																							
コミュニティパーク事業 実施公園数	目標	-	-	現状以上	R 年度																																																																																																							
	実績	7.0	7.0		なし	R 年度																																																																																																						
	達成率	-	-																																																																																																									
駐車場有料化実施公園数(箇所)	目標	13.0	13.0	-	R 年度																																																																																																							
	実績	13.0	13.0		なし	R 年度																																																																																																						
	達成率	100.0%	100.0%																																																																																																									
民間活力導入事例数(箇所)	目標	4.0	4.0	-	R 年度																																																																																																							
	実績	4.0	4.0		なし	R 年度																																																																																																						
	達成率	100.0%	100.0%																																																																																																									
指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)																																																																																																							
	年度	R3年度	R4年度	R5年度		最終年度																																																																																																						
身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】	目標	52.5	55.0	55.0	R 年度																																																																																																							
	実績	30.8	31.8		なし	R 年度																																																																																																						
	達成率	58.7%	57.8%																																																																																																									
地域活動への参加率	目標	68.0	68.0	70.0	R6年度																																																																																																							
	実績	43.3	45.0		なし	R6年度																																																																																																						
	達成率	63.7%	66.2%																																																																																																									
	目標				R 年度																																																																																																							
	実績				なし	R 年度																																																																																																						
	達成率																																																																																																											

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 4-6-1 再 4-4-2	施策成果指標 なし
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上	
事業群	公共空間の利活用の推進	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)	
令和4年度決算額(見込額)	
歳出合計	23,071
歳入	
特定財源	0
一般財源	23,071
前年度決算額・翌年度予算額	
年度	R3 R5
歳出合計	185 26,026
歳入	
特定財源	0 0
一般財源	185 26,026

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	快適で高質な都心回遊空間の創出事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	住宅都市局都心創生課	根拠法令	なし		都心部の更なる機能強化と魅力づくりを図るため、核となる天神・渡辺通、博多駅、ウォーターフロントの3地区の都市機能を高めるとともに、各地区が相互に連携し、都心部全体の活力が向上するよう、回遊性強化に取り組むもの。
開始年度	H25	行政計画	なし		※第9次福岡市基本計画(H24.12策定)「施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり」

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都心部において働く人、住む人、訪れる人など	実施内容(事業手段)	令和4年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○都心回遊に関する庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて、事業全体の最適化を図っている。 (事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案) ○リバーフロントNEXTについては、エリア内で実施される個別の事業について、複数の関係部署と連携しながら、施策効果の最大化を図る事業内容や進め方等の検討を行った。(春吉橋迂回路橋の整備・活用、清流公園再整備の検討など) ○西中洲地区の魅力づくりに向けた景観誘導～情緒ある路地空間の創出～	成果(見直し判断基準)	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 都心部を回遊する市民や来街者を増加させ、飲食、買い物、宿泊など様々な経済波及効果による市全体の活力が向上するよう引き続き検討していく。
	事業目的				

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)		②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)		③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)		④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)				
	道路、河川、公園などの回遊空間のコンセプトやデザイン、回遊スポットとなるにぎわい空間の創出について、関係局連携のもと検討・共有・整備を推進する。		都心部回遊空間の形成とあわせて、エリアマネジメント組織等による回遊空間等での活動が活発になることで都心部に賑わいと活力を与える。		都心部の回遊空間を歩行する市民や来街者等が増加する。		都心部を回遊する市民や来街者の増加により、飲食、買い物、宿泊など様々な経済波及効果がもたらされ、市全体の活力が向上する。				
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標				
	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	
活動の指標	エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	50	50	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時～20時)) (単位:万人)	目標	—	11.3	R6年度		
		実績	73	65		50	実績	8.4		未調査	—
		達成率	146.0%	130.0%		—	達成率	—		—	11.3
活動の指標	エリアマネジメント組織等による公開空地等でのイベント開催件数	目標	5	5	—	目標	—	—	R年度		
		実績	12	23		10	実績	—	—	—	
		達成率	240.0%	460.0%		—	達成率	—	—	—	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	5-3-2	施策成果指標 ・観光案内ボランティアの案内人数:15,000人 ・観光情報サイトのアクセス数:910万PV	
	再	8-1-1		
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている			
施策	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり			
事業群	交通利便性や都心回遊性の向上		行政運営プラン	
取組方針	なし			
推進項目				

事業費(千円)			
令和4年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	183	
	特定財源	0	
	一般財源	183	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R3	R5
	歳出合計	126	20,541
	特定財源	0	0
	一般財源	126	20,541

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	都心部のまちづくりの推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 福岡市においても将来的には人口や税収の減少が見込まれる中、これまで以上に都市の機能強化と魅力づくりを図ることが必要。そのためには都市の成長を牽引する都心部において、計画的な機能更新により、あらゆる人の活動を支えるための都市機能に磨きをかける必要がある。
所管課	住宅都市局都心創生課	根拠法令	なし		
開始年度	平成20年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都心部において働く人、住む人、訪れる人など	実施内容(事業手段) 令和4年度、前年度の改善方を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○国家戦略特区により、航空法高さ制限の緩和を獲得した機を逃すことなく、平成27年に「天神ビッグバン」、平成31年に「博多コネクティッド」をそれぞれ始動している。建替えにあわせ、水辺やみどり、文化・芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりを推進 ・都心部機能更新誘導方策適用(地区計画:2件、個別ビル:地区計画型3件) ・都心部機能更新誘導方策の制度を拡充し、「みどり」等の誘導を強化 ・天神ビッグバンの規制緩和第3,5,6号のビルが新築工事着手	成果(見直し判断基準) どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか 企業進出による商機拡大や雇用創出、まちの賑わい・魅力向上により、持続的に来街者が増加するよう引き続き検討していく。
	事業目的 対象をどのような状態にしたいのか 都心部のまちづくりを通じて、人と経済活動呼び込み、様々な投資やサービスの提供がなされ、そこに様々な雇用が生まれることで、生活の質が更に高まっていく。		

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 機能更新誘導方策を始めとする様々なまちづくりの制度について周知する。(ホームページやリーフレット等の作成・更新・配布など)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) 周知の対象である事業者において、更新期を迎えたビルの建替え検討がなされる一環として、まちづくり検討の場ができ、当課との協議の機会が増える。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 老朽化したビルが耐震性の高い先進的な業務・商業ビルへと更新されることで、新たな企業が進出する受け皿が整うとともに、国際競争力、環境、安全安心、魅力、共働といった視点でのまちづくりが推進される。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 企業の進出が促進されることで、商機拡大、雇用創出などにつながるのみならず、まちの賑わいや魅力が向上し、来街者が増加する。							
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)							
	活動の指標	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度
制度PRのためのパンフレット配布や出前講座開催の件数	目標	10	10	10	R 年度	都心部の従業者数(単位:万人)	目標	-	40	-	R6年度
	実績	8	11		-	実績	39.8	未調査	-		40.0
	達成率	80.0%	110.0%		-	達成率	-	-	-		-
エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	50	50	50	R 年度	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(単位:万人)	目標	-	11.3	-	R6年度
	実績	73	65		-	実績	8.4	未調査	-		11.3
	達成率	146.0%	130.0%		-	達成率	-	-	-		-

事業区分			重点
基本計画			
施策コード	主	8-1-1	施策成果指標 都心部の従業者数 (R4年度目標値:40万人)
	再	7-4-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化		
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和4年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	10,641	
	特定財源	100	
	一般財源	10,541	
前年度決算額・翌年度予算額			
歳入	年度	R3	R5
	歳出合計	17,437	14,396
	特定財源	13,746	1,600
	一般財源	3,691	12,796

事務事業マネジメントシート（令和4年度実施分）

事業名	ウォーターフロント再整備の推進		背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管課	住宅都市局ウォーターフロントまちづくり推進課	根拠法令		なし	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション施設等の高い稼働率に対する都市機能の供給力不足が顕在化した。 ・第9次福岡市基本計画に、WF地区の都市機能を高めることが位置づけられた。
開始年度	平成25年度	行政計画		第9次福岡市基本計画	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(事業手段)	成果(見直し判断基準)
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民 ・国内外からの来街者（MICE施設利用者等） 		
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか	令和4年度、前年度の改善方策を踏まえ、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか <ul style="list-style-type: none"> ・ふ頭基部において、屋外空間の利活用等の視点を加えるとともに、社会経済情勢の変化等を踏まえながら、市民や来街者が楽しめる魅力あるまちづくりに向け、関係局と連携して検討を行った。 (関連事業の状況) <ul style="list-style-type: none"> ・R2年5月に立体駐車場を供用。 ・R3年2月に都市計画道路築港石城町線を供用。 ・R3年4月にマリンメッセ福岡B館を開業、歩行者用上屋を整備。 	どのような状態になったら事業を見直し(終了)するのか <ul style="list-style-type: none"> ・MICE等の多様な都市機能の強化と市民や来街者が楽しめる魅力あるまちづくりがなされれば事業終了となる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE等の機能強化が図られ、世界中の人々との出会いと交流が生まれている。 ・都心の貴重な海辺空間で日常的に憩い楽しんでいる。 		

【ロジックモデル・指標の達成度】

ロジックモデル	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE等の所管局と連携し、都心部の機能強化や魅力が向上するよう、民間事業者の意見なども参考にしながら、民間活力やノウハウを活かす事業スキームを検討する。 ・市民や民間事業者への広報や情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者のより良い提案を引き出す事業スキームをとりまとめ、事業化に向けた取組み(事業者公募など)を進める。 ・事業に対する市民の理解や認知度が深まるとともに、民間事業者の参画意欲が高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE等の機能強化や、海辺を活かした新たな賑わい・憩い空間の創出など、都市機能の強化や回遊性の向上が図られ、市民や来街者が日常的に憩い楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の成長をけん引する都心拠点が形成される。 						
	指標の内容	実績		目標		指標の内容	実績		目標	
	事業内容やスキームのとりまとめ 広報・情報発信活動の実施件数(シンポジウムや出前講座、現場視察等)	年度	R3年度	R4年度	R5年度	最終年度	年度	R3年度	R4年度	R5年度
活動の指標	目標	検討	検討	検討	(未定)	都心部の従業者数(単位:万人)	目標	-	40	R6年度
	実績	検討	検討	検討	策定		実績	39.8	未調査	-
	達成率	-	-	-	-	40.0	達成率	-	-	-
	目標	10.0	10.0	10.0	R 年度	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(単位:万人)	目標	-	11.3	R6年度
	実績	0.0	6.0	10.0	-		実績	8.4	未調査	-
	達成率	0.0%	60.0%	-	-	11.3	達成率	-	-	-

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	8-1-1	都心部の従業者数 (R6年度目標値:40万人) 都心部の1日あたりの歩行者交通量 (R6年度目標値:113千人)
	再	5-4-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		施策成果指標
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化		
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり		行政運営プラン
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和4年度決算額(見込額)			
歳入	歳出合計	9,300	
	特定財源	0	
歳入	一般財源	9,300	
	前年度決算額・翌年度予算額		
歳入	年度	R3	R5
	歳出合計	4,123	29,750
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	4,123	29,750